

石産協通信発行100号記念
レジェンド座談会

歴代会長・現会長

- ◎井口健二(いぐちけんじ)
会長就任期間2001年～2011年 現在顧問
- ◎射場一之(いばかつゆき)
会長就任期間2012年～2019年 現在監事
- ◎森田浩介(もりたこうすけ)
会長就任期間2020年～ 現在会長



社内の
みなさまで
回覧して
ください

2025年
5月15日発行
《隔月15日発行》

——本日は歴代会長・現会長のお三方に、石産協設立当初の想い、会長交代時のエピソード、そして現在の石産協のことなどについて、お話をうかがっていきます。まずは、井口顧問、石産協設立の前身となるような動きは、いつ頃からあったのでしょうか？

井口顧問(以下、井口) 当時、ジャパンストーンフェアを開催するにあたって、業界の複数の団体(*1)の代表者が集まったんです。その時に「せっかくこうして集まったのだから情報交換の場を作ろうよ」という話になったのが始まりです。具体的な話が出始めたのは1996年頃ですね。ジャパンストーンフェアを開催する度に、集まったメンバー間で情報交換の場を求める声が上がっていました。そして第6回ストーンフェアの開催時、実行委員長の吉田剛さん(現:全国優良石材店の会 名誉会長)を中心に、このまま解散するのは惜しいという声が皆さんから上がり、金沢の立野雅幸さんを議長として石材業界の様々な業種を網羅する業界団体設立への機運が一気に高まりました。しかしその後、立野さんが亡くなり、それを継いだ私と中江勁さん(石産協初代専務理事)を中心として各団体から約20名が集まり、2年間ほど連絡会議を行いました。いよいよ会の名称と会長を決めるとなった時に、勁さんからの推薦で私の名前が上がりました。年齢的な若さや、監督官庁があって迅速に対応できる東京在住ということが大きな理由であったかと思います。勁さん本人は、当日の会議の前に浅草の観音様へお参りした際に「会長は井口健二だ」と言われたことが大きな理由だとおっしゃっていました(笑)。

——その時はご自身が会長になるということは予想されていたか？

井口 全く考えていなかったのですが、私が当時45歳ということで、今後の業界のためにも、なるべく若く、全国のどこへでも要望に応じて動けることができ、そして、ある程度顔の知れた人間であるべき、という意見には賛成でした。

——射場監事はその頃、どのような活動をされていたのでしょうか？

射場監事(以下、射場) 私はまだ主だった活動は何もしていませんでした。しかし2001年10月の設立総会には一会員として参加していました。

——森田会長はいかがでしたか？

森田会長(以下、森田) 私もまだ社業以外の対外的な活動には参加しておらず、失礼ながら、全く興味がありませんでした(笑)。お墓ディレクターの試験を会員価格で受検するために入会したのがきっかけだったかと思います(笑)。

——設立当初は様々な困難があったと思います。井口顧問の中で、特に印象に残っていることはありますか？

井口 まず設立当初は全国各地の組合をまわり、設立への協力を呼びかけました。今後の存続に危機感を抱いていた組合からは歓迎もされましたが、組合がしっかりしている地域ほど、若い人たちが集まる石産協の設立に抵抗があり、「うちの若い連中を石産協の方へ引っ張っていくのか」ということを言われる方もいらっしゃいました。自分たちの活動にもなかなか出てこない若い人たちが、さらに離れていってしまうのではないかと懸念もあったのだと思います。

——それに対して、井口顧問はどのように説明されたのですか？

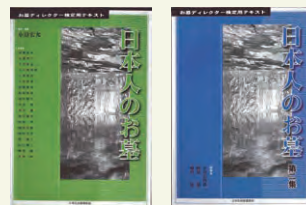
井口 引っ張るのではなく、ともにやっていくんですよ、と。決して、それぞれの組合活動を否定するものではなく、連携して情報を交換し、業界全体を盛り上げていきたいという信念があることを丁寧に説明しました。

石産協通信は
webでも
閲覧できます。



石産協HP

お墓ディレクター
検定用テキスト
日本人のお墓(左)と第二集(右)



お墓ディレクター検定試験会場

(*1) 設立準備委員会の参加団体: 日本石材協会、全国優良石材店の会、全国石材技能士会、全日本石材振興会、日本輸入石材商社会、全国石材産業総合研究会、全国青年石材連絡協議会、JC石材部会(順不同、名称は当時)



井口健二 初代会長就任



2020年 藍綬褒章受章

その後、すぐにご理解いただける組合ばかりではありませんでしたが、何度も足を運び、丁寧に説明を重ねることで、徐々に理解を得られるようになりました。最終的には、多くの組合の方々にご理解いただき、石産協を設立することができました。会長在任中に立ち上がった全支部の設立総会へ足を運んだことも、良い思い出です。

——射場監事が最初に石産協の役職を引き受けたのは、どのようなタイミングだったのでしょうか？

射場 私が2005年に日本青年会議所石材部会の部会長を務めていた当時、(株)井口石材さんの250周年事業に伺いました。その時に、石産協で新しく、一般消費者から見て、判りやすく安心と信頼を得られる、本協会による石材事業所認定制度を立ち上げるということでお声がけをいただきました。しかし私は会員を認定することに大きな違和感がありました。

したので紆余曲折の後、「事業所認定委員会」ではなく基準策定委員会の委員長を拝命し、その後、中長期政策会議を経て、副会長となりました。

——井口顧問から射場監事への会長交代時のお話を聞かせていただけますでしょうか？

井口 私は組織を作ることは得意な方ですが、具体的な運営に関しては射場さんのような緻密な人に任せるのが良いと考え、お願いしました。私はどちらかというと、新しいことを始めるのが好きなんです。でも、それを継続して運営していくとなると、どうしても苦手な部分が出てきてしまう。そこで、射場さんのような、きちんと計画を立てて実行できる人に後を託したいと考えました。

——射場監事は、井口顧問から会長職の打診を受けた際、どのように感じましたか？

射場 大変光栄なことだと思いましたが、同時に私に務まるのだろうかという不安もありました。当社はいわゆる「三ちゃん石屋」と呼ばれる、職員数も少ない家族経営の石材店ですが、その「三ちゃん石屋」の代表として、業界に貢献したいという思いがありました。大手だけでなく、私たちのような中小企業も活躍できることを示したかったのです。

——関東の会長から関西の会長へ、という流れもあったのでしょうか。

井口 それもありました。それに私も中小企業なので、やはり圧倒的に割合の多い中小企業の石材店の方に業界団体の舵取りを託したいという思いがありました。

——射場監事は、その依頼を受けて、すぐに決断されたのですか？

射場 2年間の猶予はいただきましたが、そもそも頼まれごとは断らないというポリシーがあったのでお受けしました。

——森田会長はどのようなタイミングで石産協の役職に就かれたのですか？

森田 私が初めて関わったのは、先ほど話に出た基準策定委員会に参加したことがきっかけでした。2009年に日本青年会議所石材部会の部会長を務めたのですが、部会長の職が終わるタイミングで墓石部会の部会長のお話をいただき、4年間務めたのち、副会長の職に就きました。

——射場監事から森田会長へ会長職を依頼したのはどのような経緯だったのでしょうか？

射場 私より森田会長の方が緻密なので(笑)。私が会長になって最初に決めたのは「会長職8年の任期」でした。そして、その任期満了が近づく中、そろそろ世代交代を、ということで森田さんをお願いしました。

——森田会長は、射場監事から会長就任の打診を受けた時、どのように感じましたか？

森田 何度かお断りをした記憶があります(笑)。責任の重さを感じましたし、自分に務まるのだろうかという不安もありました。

——最終的に会長職を引き受けた理由とは？

森田 とある会で私が翌日の納骨のために終電で帰る際、射場さんと握手をしたところ「会長を受けてくれるまで放さへん」と言われたので(笑)。ただ、射場さんに「森田さんしかいない」と言っていたことは大きかったです。それと、石産協をもっと良くしていきたいという気持ちもありました。

——それぞれの会長時代に、特に印象に残っている活動や、やりがいを感じた事業はありますか？

井口 私はやはりお墓ディレクター制度の設立ですね。消費者の方々に、より安心してお墓を建てていただくために、業界全体のレベルアップを図ることを目的として設立しましたが、理事会などで、会員メリットを高めるために「会員しか受検できないようにするべきだ」「資格取得を会員限定にすることで、入会促進に繋がる」などの意見もあり、なかなか可決されなかったんです。お墓ディレクター検定の大きな目的は、消費者の方々に安心してお墓づくりをしていただくこと。そのためにも、広く会員以外にも受検資格を与え、業界全体でレベルアップしていくことが、消費者の安心感や信頼の向上に繋がると考え、様々な議論を重ねてきました。検定を始める年度の総会でも侃々諤々の議論がありましたが、最終的には多くの方々にご理解いただくことができたと思っています。

——射場監事はいかがですか？

射場 一つはなんといっても2014年度のNIPPON石博の開催ですね。結果的に赤字を出してしまい、頭を丸めたということもありました(笑)。大変な思いもしましたが、多くの方にご来場いただき、石材業界の魅力を発信できたことは大きな喜びでした。予算の問題や、天候の問題など、様々な困難もありましたが、最終的には多くの方々にご協力いただき、開催することができました。やはり人が多く集まる場所に出ていくということが大事だと改めて感じました。もう一つは事業ではありませんが、会長在任中の2018年6月18日に起きた大阪北部地震です。地震後の対応に追われる状況となり、会長でありながら、地震4日後に高知で開催された総会には参加することができませんでした。



伝説のNIPPON石博

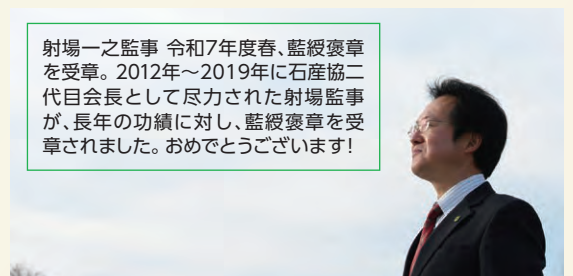


2012年 射場一之会長就任



石博後の総会にて

射場一之監事 令和7年度春、藍綬褒章を受章。2012年～2019年に石産協二代目会長として尽力された射場監事が、長年の功績に対し、藍綬褒章を受章されました。おめでとうございます！



——森田会長は現役の会長職ですが、印象深い事業というのと、どのようなものでしょうか？

森田 私はコロナ禍での会長就任でしたので、過去の継続事業なども行うことができない分、組織改革に力を入れました。支部長が理事から外れる件や事務局の大掃除、また会費の値上げについて等、内部的な取り組みが主でした。

射場 私が好きにやらせていただいた分を整理してもらいました(笑)。

——では、続いて会長時代に経験されたトラブルや、そこから得た教訓などがありますか？

井口 設立当初は新しい試みばかりなので、いろいろな意見もあり、組織運営に苦労したことを覚えています。私の時には事業の内容というよりも、そういった組織内部の体制を整えることに苦労した記憶があります。

——「湯口さんと間違われた(笑)」という話を聞いたことがありますが、どのようなお話でしたでしょうか？

井口 当時、関連部会の川本恭央さんが九州ストーンフェアの開催説明会のために九州へ行く際、「湯口さんに行く(湯口喜代志 元関連部会長)」と伝えつつも「井口さんに行く」と間違えて伝わってしまい、多くの方が会合へご参加いただくことになってしまったと(笑)。結果、私も同席しましたが、九州の方々と親交を深め、たくさんのお話を聞くことができました。また、それがきっかけで九州各県の支部を設立していただけたことも大きかったですね。

——井口顧問はいつも穏やかで、あまり感情的になれない印象です。

井口 いやいや、感情的になることもありましたよ(笑)。会議中、私がテーブルをひっくり返しそうになるのを隣に座っていた犬塚克明さん(元副会長)が必死になって押さえてくれていたこともありました(笑)。

——そんなこともあったんですね(笑)。射場監事はいかがですか？

射場 今は理事に就任するにあたって同意書を提出してもらっていますが、こういった団体の運営についてはトラブルに直面する場合もあるので、可能な限りの事前対策が必要だと思いはりました。また、感情的になったという訳ではありませんが、お墓ディレクター試験を受ける直前に入会された方が、試験後、すぐに退会された時は非常に残念な気持ちになりましたね。

——森田会長はいかがでしょう？

森田 この中で一番感情的になりやすいのは私でしょうか(笑)。

——そうですね(笑)。いやいや、森田会長、冗談です(笑)。

森田 私はまだ任期中ですし、トラブルというほどではありませんが、トラブルの原因になりそうな方が入会しそうになり、いろいろと議論や対応を進めてきたことはありました。

——皆さん、それぞれに苦労もあった中で、心折れずに続けてこれた理由とは？

井口 以前、経産省に訪問した際に「石屋の団体か」という程度に軽くあしらわれ、「いつか見返してやろう」という気持ちが糧になりました。設立当時の話ですので、さすがにその経産省の方はもういないと思いますが(笑)。

射場 私の場合、心が折れそうになったという経験はなかったかもしれませんが。というのも、福川修介さん(元副会長)や森田さん(当時副会長)のような役員の方が防波堤のように守ってくれたからだと思います。見えにくい部分で井口初代会長が守ってくれていた場面もたくさんあったと思います。

——森田会長は現役の会長ということで、心折れる訳にはいかないかと思いますが(笑)。

森田 心折れてはいませんが、やはり退会届を受け取った時はさみしい気持ちになりますね。特に知っている方だったりすると尚更です。

——会長職を受けていた当時の名物会員さんといえば、どのような方でしょうか？

井口 たくさんいらっしゃいましたよ。時代的にも言いたい放題言える環境だったので(笑)。そんな中でも、地元の方々に石産協への理解を促していただいた北海道の岩崎孝さん、香川の山田賢二さん、長崎の大石重信さんなどなど、本当に多くの方に力を貸してもらいました。また、たくさんの方に顔を覚えていただけたことも大きかったですね。以前、中国の空港でお会いした方に「石産協の井口さんですね!」と言われ、誰だか分からないまま挨拶していたのですが、結果的に、まったく面識のない方だったということもありました(笑)。

——射場監事はいかがですか？

射場 私は中江勤さんが印象深いです。先日、京都の国会図書館に行ったところ中江さんが出版された小冊子が収蔵されていて驚きました。中江さんからは、業界のいろいろな話を聞かせてもらい、人間的にも、とても粋な方でした。石産協は、心の温かい方が多いのも特徴だと思います。先ほど少しふれた大阪北部地震の時に、全国からたくさんの方が無償で手伝いに来てくれて、それは本当に涙が出ました。石産協という団体があって、そこに所属している心から良かったと思いましたね。

——森田会長はいかがですか？

森田 現在進行形ですが、寺尾晴邦さん(現地区担当副会長)はこれから大いに名物会員になっていただけるものと期待しております(笑)。また、射場さんの話とも重なりますが、特定の誰かというわけではなく、多くの会員さんがとても協力的に協会の活動に向き合っていることは、感謝の気持ちしかありません。今日もこうやって会議をして(取材当日は石産協正副会長会議日)、皆さんが本当に真面目に業界の未来のために議論してくれていること。そして、メディア対策委員会の皆さんが石産協通信のために時間を割いて取材してくれている。そういった姿に触れる度に、いつも感動しています。自分一人では絶対にできないことなので。

——続いては、少し変化球的な質問として、お酒にまつわるエピソードをお聞きたいのですが、森田会長は昨年一年間で、どれくらい懇親会に参加されましたでしょうか？

森田 正確には分かりませんが、150日くらいでしょうか(笑)。石産協の会合は都合がつく限り出ていますが、私は普段関西にいて、やはり東京で飲めるというのは特別感がありますね。普段なかなか会えない方と会うのもよい刺激になります。

射場 私は、新宿で飲んでいて、気が付いたら大阪の自宅にいた、ということがありました。どうやって帰ったのか全く記憶がないんです。でもしっかりと無事に帰宅していました(笑)。

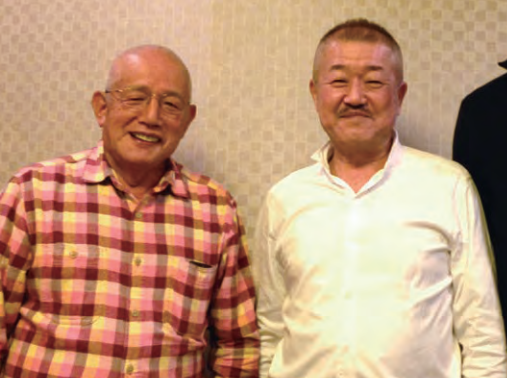
井口 私は長崎で飲んだ後の締めで、ラーメンとかではなく、佐世保バーガーを食べに行ったのが印象に残っています。ご当地ならではのものって良いですね。あと、北海道の大沼のホテルで露天風呂に入っていたら隣に鹿がいたのはびっくりしました(笑)。お酒にまつわるエピソードでは、とある



2022年
森田浩介
会長就任



コロナ禍のオンライン総会



初代専務の中江勤氏(故人)と



10周年記念祝賀会



森田会長就任の総会で

地区での支部設立説明会後の懇親会で、ある方から「ここにいる皆と順番にコップ一杯の日本酒で乾杯して、飲み干したら入会申込書を渡す」と言われ、あの時は20杯くらい飲みました(笑)。

——まさに設立当時ならではのエピソードですね～(笑)。ところで、皆様はそれぞれのことをどう思っていますか？ぜひ、ここでは、ざっくばらんにお願いします！まずは森田会長から井口顧問の良いところと、ここはちょっとなところを教えてください。

森田 とても優しい大先輩ですし、どんなこともしっかりと教えてください。悪いところは…私は禁煙が趣味なのですが、以前禁煙中にお会いした際「人生一度きりだよ」と言われ、禁煙に失敗したことがありました。悪い先輩ですね(笑)。

——悪い先輩ですね～(笑)(笑)。井口顧問から見た射場監事はどうですか？

井口 几帳面だし、とても頭がきれる。私に出来ないことをできる人だと思います。

——ここはちょっとなところは？

井口 宴会で乾杯した後、すぐに食べ始めるところ(笑)。

射場 料理は出されたらすぐに食べるようにと祇園で教わりましたから(笑)。

——さすがです(笑)。では射場監事から見た森田会長はいかがですか？

射場 「Hot heart and Cool brain(熱い心と冷静な頭脳)」を持ち合わせています。それと悪い部分ではないかもしれませんが、年長者に気を使っていると感じる時はあります(笑)。

——後輩には厳しいですけども…(笑)。森田会長、冗談です(笑)、ほんとに…(笑)。さてさて、インタビューも終盤となりましたが、今回の対談は石産協通信の第100号を記念しての企画です。お三方は石産協通信に関しての思い出はありますか？

射場 最初は当時の杉本事務局長が一人で作ってくださっていて、途中から広報委員会が担当し、内容も白黒からカラー印刷になってと、だんだんグレードアップしていきました。私はすべて手元に残してあって、今読み返しても、とても楽しい内容だと思います。

森田 私もスキャンしてすべて保存してあります。

——お二人ともすごいですね！ちなみに、井口顧問は？

井口 私は……、ないかもしれません(笑)。

——悪い先輩です(笑)。いやいや、ごめんなさい、これはほんとに冗談です(汗)。

森田 石産協通信って、年々中身が濃くなってきていて、毎回楽しみにしているんですが、自分の場合、顔付きで文章が掲載されることもあって。文章の上手な射場さんの後ということもあるので、その文章づくりの緊張感ばかりが印象強い面もあります(笑)。

——石産協通信に会長のご挨拶はマストなので、今後もよろしくお願いします！では、最後の質問です。石産協の活動に参加したくても、なかなか参加できていないという方も少なくないと思います。そのような方々へぜひメッセージをお願いします。

井口 せっかく入会したからには一歩踏み出して、総会や事業に参加してみたいです。そこには様々な情報が溢れているので、会の有益性を感じてもらえると思います。そのために、私たちのような普段から参加している協会のメンバーが積極的に交流していく姿勢も大事だと思っています。

射場 食わず嫌いは本当にもったいないと思います。会のネットワークを最大限に活用していただきたいです。以前、ピラミッドの研究をしている大学の教授が当社へお越しになり、「ピラミッドの石に一番近いと言われている琉球砂岩を探しているが、どうしても手に入らない」と相談を受けました。そこで沖縄県支部の屋良朝敏さん(元沖縄県支部長)に聞いたところ、三分で話が終わりました。このネットワークはお金では買えない石産協ならではの大きな価値だと思います。

森田 辞めずに続けてくださっている方は、きっと参加したい意思はあるのだと思います。最初から総会に出るのは難しくとも、まずは支部の会議等に参加してみたいです。自分だけでは行き詰まってしまうような時も、石産協のメンバーから様々な成功例やアイデアをたくさん吸収できると思います。そして、そのような期待に応えられるよう、これからも魅力的な会にしていきたいと思っています。

井口 最後に一つお話ししたいのですが、東日本大震災の後に、当初は福島での護岸工事に県外の石材を使用していたのですが、そこに福島県産の石材を使えないかという声が上がリ、その声が、村から県へ、県から国へと回り、最終的に経産省から石産協に届きました。そこで当時、仙台で砂利の出荷基準を作成する際に参加されていたメンバーに協力してもらい、福島県産石材の出荷基準を作成することで、福島の護岸工事に県内産の石材を使用できることとなりました。以前は役所から「石屋の団体か」と、軽くあしらわれるようなこともありましたが、国からも依頼がくる団体になったということで、あの時はとても感慨深かったです。

——いまや石産協が国からも認められる団体になったというエピソードをうかがいながら、今後も、さらに発展できるように頑張っていきたいという気持ちになったインタビューとなりました！今日は長時間にわたり貴重なお話をありがとうございました。次回はぜひ200号記念号でもお話を聞かせていただければと思います！

インタビュアー：山口康二副会長



47都道府県 支部長紹介

全国47都道府県に支部があり、すべての会員が支部に所属し、横のつながりを良い形で実現しています。この「場」は支部会員間の交流だけではなく、学びや研鑽の場として価値のあるものになっています。情報の共有はもちろんですが、災害協定やボランティア活動など個人ではできない地域団体とのつながり方についても学んでいます。今号からは、支部の代表として、日々活動している支部長を順番にご紹介してまいります。(順不同)

①ご年齢 ②ご自身の名前の由来 ③支部の活動内容(活動予定) ④森田会長の所信にある「業界を元気にする」「学べる地区支部を広げる」を実現するため、支部としての意気込みを一言

埼玉県支部長

篠田雅央

しのだまさお



- ①57歳
- ②曾祖母が立正佼成会にて付けて頂きました。
- ③ワクワク・ウキウキ、何か楽しそう、眠くならない事業をやっています。
- ④元気＝年齢でない、前向きな斬新な考え意見をドンドン事業に反映させます。

京都府支部長

吉村 徹

よしむらとある



- ①65歳
- ②聞いた事はありません。
- ③支部会員にとって何かヒントになる様な事を伝える為、石産協で、何が行われ、話し合われているかの周知
- ④Grokで墓石業界について聞くと墓石業界の市場規模は縮小しており、2000年代に約4500億円だった市場が、現在では1700億円程度とも言われるまでに縮小しています・・・という回答でした。その間、我々業界の経営努力が足りなかったのかも知れませんが、これでは元気が出ませんし、個人では対応できないレベルになってきていると思います。幸い今、世界中でグローバル化からの価値観の変化が起こってきており、石産協には、世の中のトレンドや社会的な変化を作り出せる様な指導力を発揮して頂き、我々業界の環境を整えていって貰えれば、我々も元気が出ると思います。

栃木県支部長

本橋昭次

もととししょうじ



- ①71歳
- ②両親が他界している為、想像です。昭次ですから昭和(昭)をつぐ(次)と考ております。
- ③・その道のプロによるスキルアップ講習会
・市町村の窓口でもある駅前の床のクリーニング
- ④担い手に現在の情報化社会に見合った安心と安全のスキルアップとして大災害が起きた時、被災地に駆けつけて片付けだけでなく同じ施工が可能になる施工が大切と考えた結果根拠となる数字を基に施工基準法の策定が急務だと捉えその策定を強く望み邁進してまいります。

長崎県支部長

本村秀昭

もとむらひであき



- ①67歳
- ②昭和の時代の優れた人になってほしいとの願いから。
- ③・他支部との情報。意見交換会の実施
・会員の技術向上へ向けての研修会・ビジネス勉強会(経営学)の開催
・災害協定の締結
- ④長崎県支部長として、支部の皆様と”同じ想い・同じ目的意識”を持って事業等を行うこと・学ぶことの大事さを伝えられたらと考えております。

山形県支部長

松田勝行

まつだかつゆき



- ①54歳
- ②初代より襲名:松田 駒蔵/4代目:幼名 勝三/5代目:勝彦/6代目:勝行/長男:勝弥
- ③4月総会及び関連部会合同懇親会
- ④会員増強

石産协会会员数

1,045名(2025.4.1現在)

地元やお取引先の石材店をご紹介ください。全国組織のネットワークを通じ、石材業界を盛り上げていきましょう。

「平和のモニュメント」大阪・関西万博から世界へ発信！ いくぜ万博！ やったぞ加工部会！

大阪・関西万博開催期間：2025年4月13日(日)～10月13日(月・祝)

4月13日に待ちに待った大阪・関西万博が開幕し、私達は真っ先に「平和のモニュメント」が設置してあるブルガリアパビリオンに向かい、改めて万博出展が現実のものとなったのだ！という実感に包まれました。開幕初日ということもあり、大勢の人で賑わい、ブルガリアパビリオンにも長い行列ができていました。入場の待ち時間には、我々がモニュメントと一緒に設置したデザインベンチに座って休んだり、記念写真を撮ったりしている方が見られ、誇らしく感じました。この場所に「平和のモニュメント」が建つまでには計り知れない苦難の連続でしたが、すばらしい部会の仲間と共に乗り越えることが出来ました。一人でも多くの方にブルガリアパビリオンに足を運んでいただき、今回の石産協加工部会の軌跡である「平和のモニュメント」と一緒に記念撮影し、SNSなどで盛り上げていただければうれしいです。さあ、みなさん大阪万博にLet's Go! [加工部会長 北島敏行]



ブルガリア共和国政府 万博担当
ジョージ・コストフ氏(右)と

感無量!! この言葉を嘘偽りなく言えます。
部会のみんなといくつも困難を乗り越えたからです。
こんな感動、人生であと何回味わえるんだろう。
感謝の宝石箱や〜!! (大川弘展)



多くの人で賑わう会場で
ブルガリアパビリオンに
展示されている
平和のモニュメント。
本当に展示されたのだと
実感する瞬間でした。
みなさんの苦労が
フラッシュバック
してきて感動!
是非たくさんの方に
見ていただきたいです。
(坂口祐樹)



ブルガリアパビリオンの
前庭のベンチに腰掛け、
平和のモニュメントを
眺めながら、
大阪・関西万博を
楽しんで見ませんか?
自然と笑顔になりますよ!
(齋藤繁樹)



ブルガリア共和国政府 万博担当部長
コンスタンティン・ボテフ氏(左)と

本当に良い体験を
させていただきました。
感謝です! (岩重昌人)



すぐやる! 必ずやる! できるまでやる! を
モットーに取り組みました。結果、みんなの
スキルアップにもつながりました。(坂口 登)



建築・環境部会研修開催

栃木県内採石場研修

2025年3月28日(金) 参加者数:17名

芦野石の採石場と工場、施工例として芦野石を主に使用している「石の美術館」を見学。その後、大谷石採石場と大谷石採石場の跡地を活用した「大谷石資料館」を見学しました。当日の予報は雨天でしたが、研修実施に影響がなく、無事に終了しました。各採石場では丁寧な説明を受け、参加者からはとても勉強になったと高評価でした。同県内とは言え、移動に時間を費やし、もう少しゆっくりと見学したかったという声もいただきました。今後も墓石以外に使用される国産材の魅力を紹介する機会を設けたいと思います。[建築・環境部会長 友常千秋]



芦野石 石の美術館



大谷石観音にて

墓石部会セミナー開催

「これからの墓じまいの在り方～撤去部材の活用方法について」

2025年4月10日(木) 参加者数:20名(ワйм神田Room8A)+45名(オンライン)

講師:法律顧問 弁護士 戸部秀明 氏

事例発表:(株)大橋石材店・大橋理宏 氏(神奈川県支部)／林石材店・林敏雄 氏(新潟県支部)／有光徳石材・山田昌史 氏(愛知県支部)／宝木石材(有)・宝木幹夫 氏(福井県支部)

顧問弁護士の戸部先生には撤去部材の取扱いや運搬、実際に活用するにあたっての注意事項などをお話いただき、それまで曖昧であった部分がクリアになった方も多いのではないのでしょうか。また4名の講師にはそれぞれが実際に取り組んでいる撤去部材の活用方法について細かくお話をいただきました。これにより撤去部材の活用に向けてイメージができた方もいらっしゃるかと思います。本セミナーが参加されたみなさまの事業発展のきっかけとなれば幸いです。これまでにない多数のご参加ありがとうございました。[墓石部会長 加藤康弘]



第6回 お墓未来プロジェクト

2025年4月24日(木) 福岡県福岡市 参加者数:32名

【第1部】「訪問販売から学ぶ、究極の営業テクニック。」

～お客様の「検討します」はウソ!?～

▶講師:能島孝志(お墓未来プロジェクト委員長)／(株)第一石材 代表取締役

【第2部】「小さな石材店が、30年間でやってきたことすべて話します。」

～成功したこと、失敗したこと、ライバル店には知られたくないこと～

▶講師:大北和彦(お墓未来プロジェクト委員)／おおきた石材店 代表

▶次回は7月23日(水)東京開催です。
残すところ4回のセミナーとなりました。
ぜひ参加し、自身で実感してください。

まだメンバー登録されて
いない方はこちらから

*登録されている方にご開催案内が届きます。



参加者の声

山口県 天の石材 天野龍太郎さん

Q1. 何回目の参加ですか
初めて

Q2. 全体的に特によかった点は
会場の雰囲気が非常に良い

Q3. 実践しようと決めたことは
小さな差別化を積み重ねること

Q4. まだ参加したことのない方へのメッ
セージ

個人的には有益な情報をたくさん聞けま
した。必ず持ち帰れるものはあります。
ぜひ参加してみてください！

「第21回お墓ディレクター検定試験」 開催に向けて準備開始！



2025年度も「第21回お墓ディレクター検定試験」の開催に向けて準備を進めています。2級はオンライン試験のみ、1級は4会場（仙台・東京・名古屋・大阪）紙試験で実施予定です。より多くの方にチャレンジしていただけるよう改善を図っていきます！また、『お墓入門』読書会や、一般消費者向け「お墓ゼミ」のノウハウなど、検定試験以外にも提供できる機会やノウハウも用意しています。そして今年度は、お墓ディレクター資格保有者への情報提供手段のデジタル化に取り組み、数多く情報が提供できるように致します。「資格取得がゴールではなくて、始まり」と実感できる環境を整えていきますので、お墓ディレクター委員会の活動にご注目ください！
[お墓ディレクター委員長 原真]



事業案内 2025年5月～7月

ホームページにカレンダーが掲載されています。
日程の変更は随時お知らせします。

- ▶ 5月27日(火)・Zoom
災害対策特別委員会
- ▶ 6月5日(木)・香川(高松)
第2回正副会長会議
- ▶ 6月19日(木)・北海道(札幌)
輸入卸商部会
- ▶ 6月19日(木)・北海道(札幌)
価値創造委員会
- ▶ 6月19日(木)・北海道(札幌)
全国支部長連絡会議
- ▶ 6月20日(金)・北海道(札幌)
第16回定時総会

協賛・後援

【協賛】
母の日参り「俳壇」パートナーシップ賞
「妻となる 君と母の日 参りかな」
庵治ストーンフェア2025
2025年6月6日(金)～7日(土)
サンメッセ香川
お墓100年プロジェクト
第14回お墓参り写真展 応募受付開始しました(5/18まで)

【後援】
NPO法人富士山から
はじまる天然顔料と粉碎の
研究会

事務局より

事務局で長年お勤めいただきました、星野みゆきさんが5月で定年退職を迎えることになりました。今後は再雇用でお勤めいただきます。引き続きよろしくお願いいたします。

石屋ならではのLINEスタンプ
他にも“使える”LINEスタンプが計40種
QRコード

石を愛するコミュニティ

一般社団法人
日本石材産業協会
The Japan Stone Industry Association

東京都千代田区神田多町2-9 日計ビル2階
Tel: 03-3251-7671 Fax: 03-3251-7681
https://www.japan-stone.org/
企画・編集・発行：メディア対策委員会

表紙写真 「麵処 白樺山荘 すすきの店」札幌を代表する名店、濃厚な味噌ラーメンを食べるなら白樺山荘へ！すすきの店は深夜まで営業。札幌市中央区南5条西3丁目 元祖さっぽろラーメン横丁内 火～木：18時～2時／金・土：18時～2時／日・月定休日

第16回定時総会 in 北海道

2025年6月20日(金)

今回の祝賀会の目玉に元日本ハムファイターズの鶴岡慎也さんをお招きします！我々の記憶にも新しい第5回ワールドベースボールクラシック(WBC)優勝のブルペンキャッチャーを務め、プロ選手時代はダルビッシュ有選手・斎藤佑樹選手とバッテリーを組み、引退後は解説者やコメンテーターとしてご活躍されています。先日行った打ち合わせ(写真①)では、とても親しみやすい方でしたので、こちらもついフランクに話しかけてしまいました。石材業界とは全く違う世界の方ですが、どんなサプライズなお話が聞けるのか、また質疑応答の時間で鶴岡さんとみなさんの掛け合いもお楽しみのひとつです。どうぞご期待ください！なお、当日、写真撮影と色紙持参にてサインもOKとの嬉しいお言葉をいただいております。一方、新しいメンバーが加入したファイターズガールは、キレキレのきつねダンスパフォーマンスを披露。間違いなく会場を盛り上げてくれることでしょう。どうぞお楽しみにお越しください。北海道支部会員一同お待ちしております。
[定時総会実行委員会 祝賀会担当 大島秀雄]



写真①



©H.N.F.

総会資料(定時総会の審議事項)は、全会員に5月28日発送予定です。ご確認の上、議決書または委任状をWebまたはFAXでご提出ください。*定款第27条より：総会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。



災害協定締結

(2025年3月21日現在)

締結日	甲	乙	丙
2025年3月19日	三重県伊賀市	三重県支部	(一社)日本石材産業協会
2025年3月21日	三重県朝日町		

各支部で行政との締結が進んでいます。災害対策特別委員会でマニュアルを作成しましたので、必要な方は事務局までお問い合わせください。



伊賀市災害協定締結